

呼吸が困難になったとき 「人工呼吸」とは



人工呼吸は、病状の進行などで呼吸が困難になった時に、機械を使って人工的に呼吸を補助する方法です。具体的には、長い管を口や鼻から気管まで通した後、管と人工呼吸器をつなぎ、人工呼吸器から肺に空気を送り込み呼吸を助けます。人工呼吸は危機的な状況を助けてくれますが、長期間使用が必要な場合は、人工呼吸器をつけて、どこでどのように生活するか、治療や生活にかかる費用、介護の負担などを考える必要があります。

◇メリット

- 危機的な状態を一時的に回避して、病気の治療の時間を延ばせます。
- 急激な病状の変化により、止まった呼吸を助け、蘇生の機会を得られます。



◇デメリット

- 管が喉を通して気管まで入っているため、苦しさを感ずります。
- 声が出せなくなり、食べたり飲んだりすることもできなくなります。
- 人によっては、管による苦痛を和らげたり機械による呼吸とあわせるために、鎮静剤を使用する場合があります。

人工呼吸器はあくまで呼吸を補うものです。呼吸困難を起こしている原因となる病気を治す効果はなく、呼吸する力の回復は個々の病状や体力などによって大きく左右されます。呼吸する力が十分に回復していないと、人工呼吸器の使用が長期的に必要となり、下記に示す気管切開を行うことがあります。

長期的人工呼吸管理と気管切開

口や鼻から管を入れての人工呼吸器の装着が長期化すると、管の通っているところに傷ができたり、管の周囲が汚れたりするため、新たな感染による肺炎の危険が高くなります。おおむね2週間ほど経過し、医師が病状の改善が期待できないと考えた場合は、喉の所に穴をあけそこから管を気管に通す気管切開が必要になります。

◇気管切開のメリット

- 口や鼻からの管に比べて苦痛が少なく、管が不潔になりにくいです。
- 管の種類などにより発語できる可能性があります。（しかし簡単ではなく、練習や訓練が必要であり、元の声質を取り戻せるわけではありません。）

◇気管切開のデメリット

- 喉の所を切る処置が必要で、出血や感染の危険があります。
- （基本的に）声を失うこととなります。

※現在、日本では社会通念上、使用中の人工呼吸器は病状の改善以外の理由で中止することが認められていません。
※担当の医師とよく相談し、価値観にあわせた道を選ぶことが大切です。

なお、パンフレットの中のわからない用語については職員にお尋ねください。



自分らしく生きるために 「人工呼吸について」



もし、あなたが病気や事故などで判断ができなくなったとき、どのような医療を望みますか？
最期の瞬間まで「こんな治療を受けたい」、また、「こういう治療は受けたくない」という意思決定を行う際のお手伝いができると思います。
ここでは、病院などで行われているいくつかの治療についてご説明します。



はるな生活協同組合
高崎中央病院
お問い合わせは、担当医師・担当看護師まで

電話 027-323-2665
住所 高崎市高関町498-1